

# 先天性眼瞼下垂症の 前頭筋吊り上げ術

## 企画にあたって

先天性眼瞼下垂症は、大学病院や小児病院のみならず全国の多くの医療施設で治療が行われている、形成外科医にとって基本的な疾患の1つです。視機能の維持とともに整容的改善を目的に治療が行われますが、その治療介入の適応、タイミング、および手段はさまざまです。多くの専門家がさまざまな前頭筋吊り上げ術を行って優れた治療結果を公表していますが、その報告は単発で、「眼瞼下垂症」や「先天異常」などの特集の中の1項目として組み込まれていることが多く、前頭筋吊り上げ術それぞれの手技の特徴や適応について並べて比較することは困難でした。

本特集は、さまざまな吊り上げ材料、吊り上げ材料の異なる通し方や固定方法、手術時のエンドポイントの見極めの違い、さらにそれぞれの注意点と治療のゴールなどが比較できるように、先天性眼瞼下垂症の前頭筋吊り上げ術による治療に絞って、多くの経験をお持ちの術者に執筆を依頼しました。どの方法が優れているかということを検証するための特集ではなく、形成外科医が先天性眼瞼下垂症患者を前にしたときに、この特集号を開いて自身の治療法選択の参考にしてもらうことを目標にしています。

先天性眼瞼下垂症治療を行っている全国の形成外科医の本棚に置いてもらう1冊にしたいです。

信州大学形成外科 杠 俊介